

2017年度 上期決算説明会

代表取締役社長 志藤 健

YOR/ZU

株式会社 ヨロズ

東京証券取引所市場第1部 (証券コード：7294)

目次

YOR/ZU

- I. 2017年度上期業績
- II. 2017年度通期予想
- III. 米国での収益改善の進捗
- IV. 最近の取り組み
- V. 株主還元

I. 2017年度上期業績

II. 2017年度通期予想

III. 米国での収益改善の進捗

IV. 最近の取り組み

V. 株主還元

2017年度上期連結決算概要 (前年同期比)

単位：百万円

	2017年度 上期	2016年度 上期	前年同期比	2017年度 上期直近予想 ※2	直近予想比
売上高	85,709	83,173	+3.0%	82,000	+4.5%
営業利益	3,148	2,528	+24.5%	1,600	+96.8%
経常利益	3,888	456	+752.1%	1,900	+104.6%
当期純利益 ※1	2,584	△290	-	1,000	+158.4%

	2017年度上期	2016年度上期	増減額	増減率
一株当たり当期純利益	108円73銭	△11円74銭	+120円47銭	-
連結取り込みレート	112円34銭 / \$	111円68銭 / \$	+0円66銭 / \$	+0.6%

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

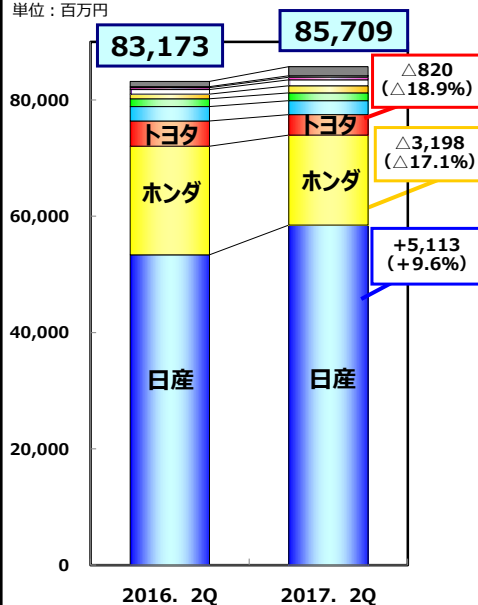
※2 2017年8月10日開示予想値

売上高 : 米国減少も日本・中国の牽引により増収
営業利益 : 日本・中国での生産好調により大幅増益
経常利益 : 為替差損から差益に転じたことにより大幅増益
当期純利益 : 営業利益・経常利益の増加により大幅増益

連結得意先別売上高 (16年上期 対 17年上期)

単位：百万円

単位：百万円



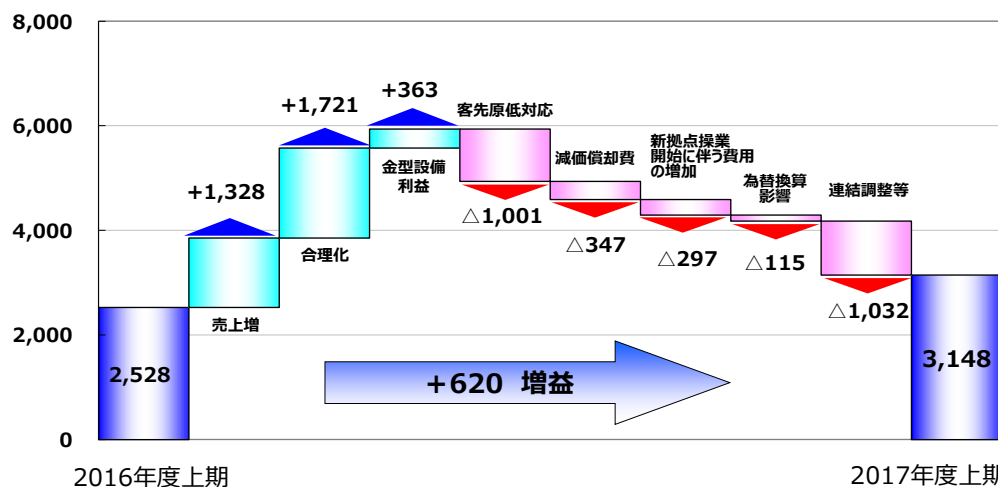
得意先	2016.2Q	(%)	2017.2Q	(%)
日産 Gr ※	53,349	64.1%	58,462	68.2%
ホンダ Gr	18,677	22.5%	15,479	18.1%
トヨタ Gr	4,342	5.2%	3,522	4.1%
いすゞ	2,482	3.0%	2,400	2.8%
マツダ	1,336	1.6%	1,339	1.6%
スズキ	799	1.0%	1,224	1.4%
クボタ	790	0.9%	1,023	1.2%
VW	326	0.4%	439	0.5%
GM Gr	174	0.2%	258	0.3%
その他	898	1.1%	1,563	1.8%
合計	83,173	100.0%	85,709	100.0%

※ ルノー向け売上含む

日産向け新車効果により売上増

連結営業利益の増減要因分析 (前年同期比)

単位：百万円



日本の新車効果による売上増や合理化などにより増益

地域別(連結調整前)売上高・営業利益(16年上期 対 17年上期) YORZU

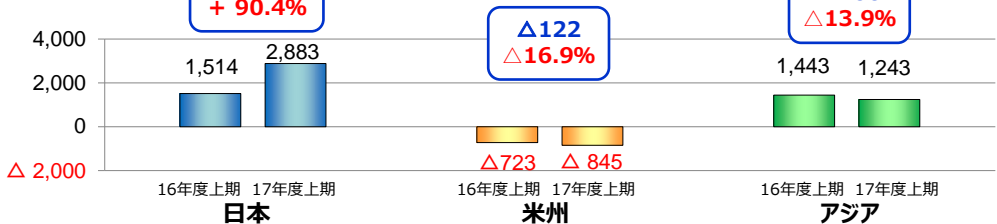
◆売上高

単位：百万円



◆営業利益

単位：百万円



日本：金型売上増加に加え、新車効果による部品売上増加により増収・増益
米州：テネシー改善もアラバマ立上げとメキシコ償却費増により営業損失
アジア：中国好調も、インドネシアの生産減少により減益

7

連結貸借対照表の概要 2017年度上期

YORZU

単位：百万円

	2017年9月末	2017年3月末	増減	
流動資産	67,683	72,018	△4,335	現預金 △5,563
固定資産	101,199	95,152	+6,046	棚卸資産 +1,338
資産合計	168,882	167,171	+1,711	有形固定資産 +4,880
流動負債	46,871	55,667	△8,796	無形固定資産 △87
固定負債	25,723	17,744	+7,978	投資その他 +1,254
負債合計	72,594	73,412	△818	有利子負債 +3,608
株主資本	83,147	81,570	+1,577	電子記録債務 △3,992
その他の包括利益累計額	△1,999	△3,124	+1,125	未払法人税等 △684
非支配株主持分他	15,139	15,311	△172	純利益 +2,584
純資産合計	96,288	93,759	+2,529	配当支払 △950
負債・純資産合計	168,882	167,171	+1,711	為替換算調整勘定 +142
				その他有価証券
				評価差額金 +888

新拠点立上げや既存拠点の増強・拡張により有形固定資産が増加
銀行借入での資金調達により有利子負債が増加

8

I. 2017年度上期業績

II. 2017年度通期予想

III. 米国での収益改善の進捗

IV. 最近の取り組み

V. 株主還元

9

2017年度連結業績予想の概要

◆ 損益の状況（前期比）

単位：百万円

	2017年度 予想	2016年度 実績	前期比	2017年度 通期直近予想 ※2	直近予想比
売上高	173,000	167,723	+3.1%	166,000	+4.2%
営業利益	5,650	6,327	△10.7%	4,100	+37.8%
経常利益	6,000	6,265	△4.2%	4,400	+36.4%
当期純利益 ※1	3,450	3,980	△13.3%	2,500	+38.0%

	2017年度予想	2016年度実績	増減額	増減率
一株当たり当期純利益	145円14銭	163円73銭	△18円59銭	△11.4%
連結取り込みレート	110円00銭 / \$	108円77銭 / \$	+1円23銭 / \$	+1.1%

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 2017年8月10日開示予想値

売上高：日本の増加に加え、円安（想定）により増加の見込み
 営業利益：日本・メキシコの固定費増加などにより減益の見込み

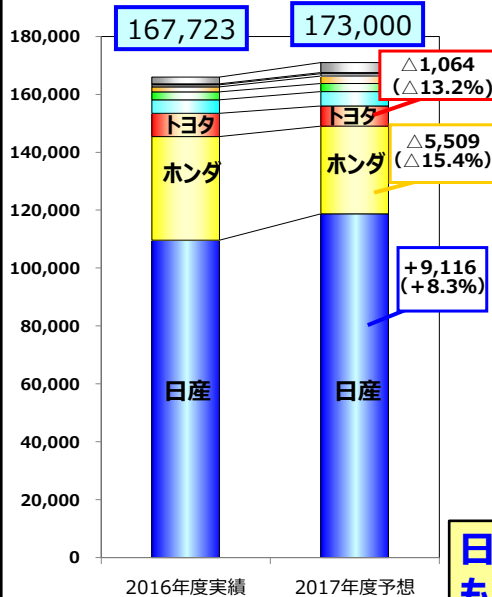
10

連結得意先別売上高 (16年実績 対 17年予想)

YORZU

単位：百万円

単位：百万円



得意先	16年実績	(%)	17年予想	(%)
日産 Gr ※	109,654	65.4%	118,770	68.7%
ホンダ Gr	35,798	21.4%	30,289	17.5%
トヨタ Gr	8,039	4.8%	6,975	4.0%
いすゞ	4,656	2.8%	4,964	2.9%
マツダ	2,746	1.6%	2,788	1.6%
スズキ	1,731	1.0%	2,577	1.5%
クボタ	1,716	1.0%	1,974	1.1%
VW	706	0.4%	817	0.5%
GM Gr	339	0.2%	391	0.2%
その他	2,338	1.4%	3,455	2.0%
合計	167,723	100.0%	173,000	100.0%

※ ルノー向け売上含む

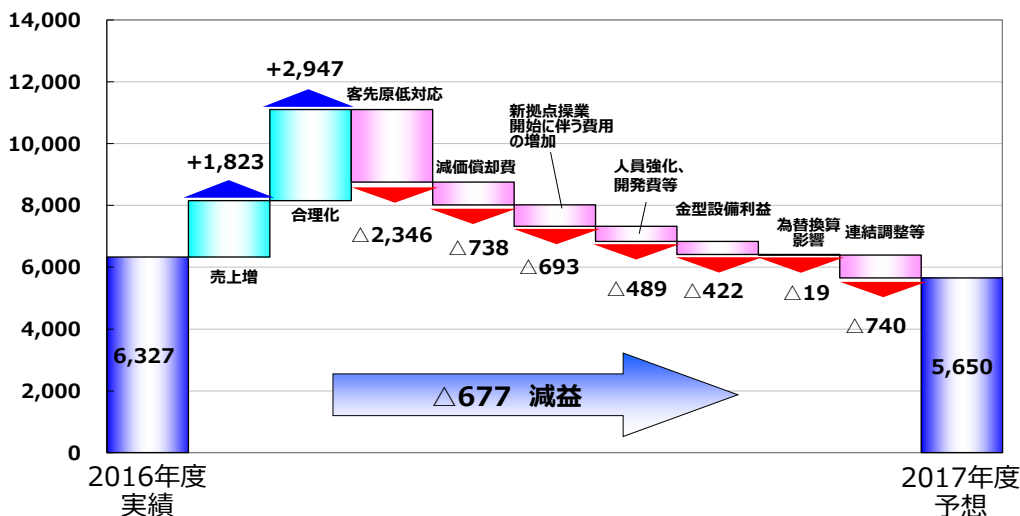
日産向け新車効果による売上増加もあり、増収の見込み

11

連結営業利益の増減要因分析 (16年実績 対 17年予想)

YORZU

単位：百万円



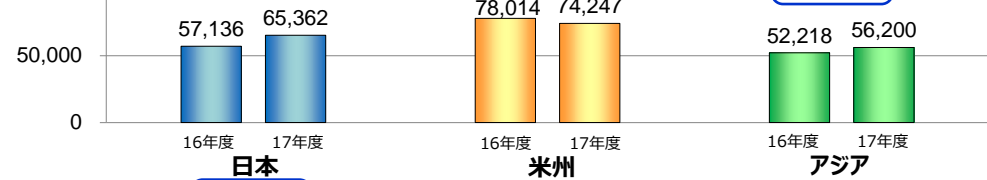
新車効果による売上増や合理化などの増益要因がある中、将来に備えた、増強・拡張による償却費増、人員強化、開発費増などにより減益見込み

12

地域別(連結調整前)売上高・営業利益(16年実績 対 17年予想) YORZU

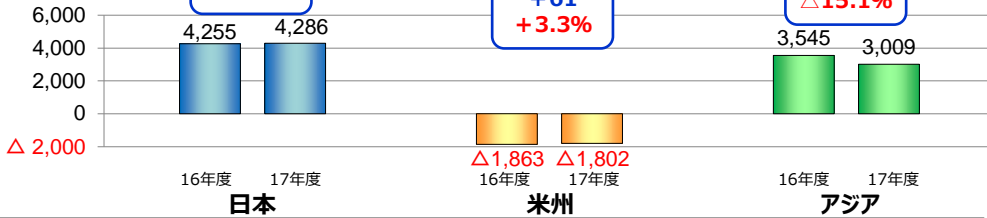
◆売上高

単位:百万円
100,000



◆営業利益

単位:百万円

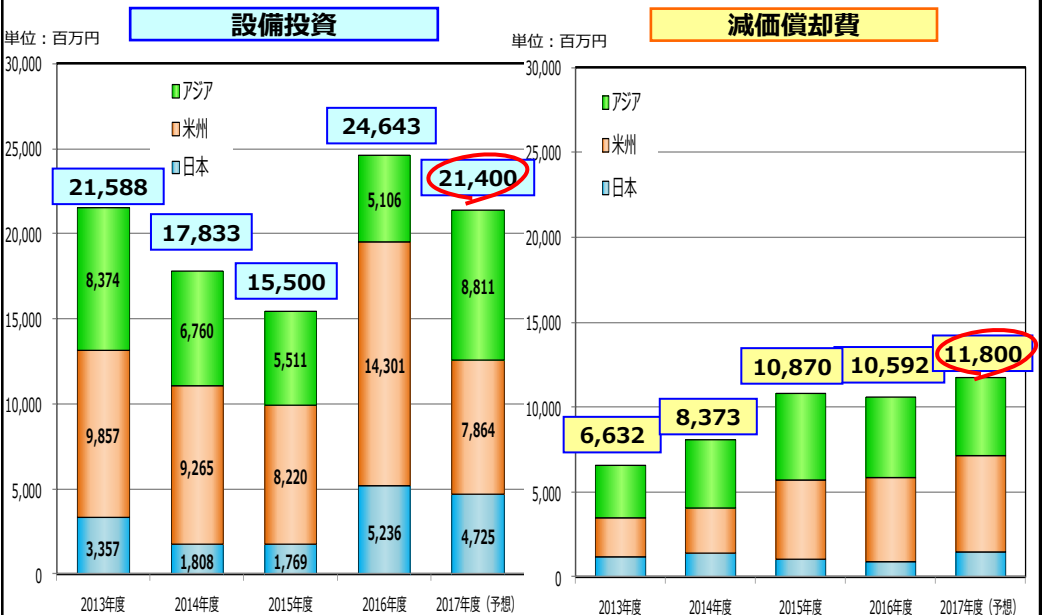


日本：固定費（償却費・人件費・開発費）の増加見込みも新車効果などにより増益
 米州：米国テネシー改善により、アラバマ立上げやメキシコ償却費の増加あるも損失は縮小
 アジア：中国好調も、タイ・インドネシアの生産減少により減益

13

設備投資と減価償却費

YORZU



14

I. 2017年度上期業績

II. 2017年度通期予想

III. 米国での収益改善の進捗

IV. 最近の取り組み

V. 株主還元

米国での収益改善の進捗（生産性向上策） YORZU

2016年度（混乱期）

2017年度（転換期）

生産増による
負荷増大

改善
・日本からのサポート
・アラバマ早期立上げ
・賃上げ

残業増加

残業減

離職率上昇・
人員補充

離職率減少・
余剰人員減

モラル低下・
生産性悪化

モラル向上・
生産性向上

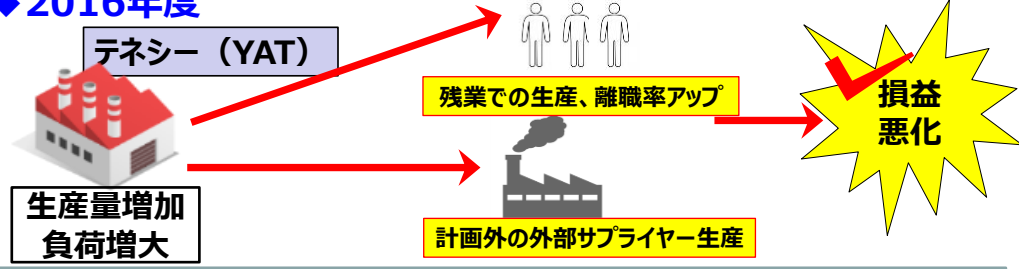
✓ 収益圧迫

収益向上

収益力は着実に向上。負から正のスパイラルへ転換途上

米国での収益改善の進捗（負荷軽減策）

◆2016年度



◆2017年1月以降



YAA早期立上げによる負荷軽減とプレス内製化

米国での収益改善の進捗 アラバマ操業開始

	2017				2018
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
実績	17年1月 プレス生産開始		17年7月 組立塗装一貫生産開始		



YAA全景



3500TFプレス (17年1月生産開始)



1200BLプレス (17年5月生産開始)



組立・塗装 (17年7月生産開始)



AGV (無人搬送機)

19

I. 2017年度上期業績

II. 2017年度通期予想

III. 米国での収益改善の進捗

IV. 最近の取り組み

V. 株主還元

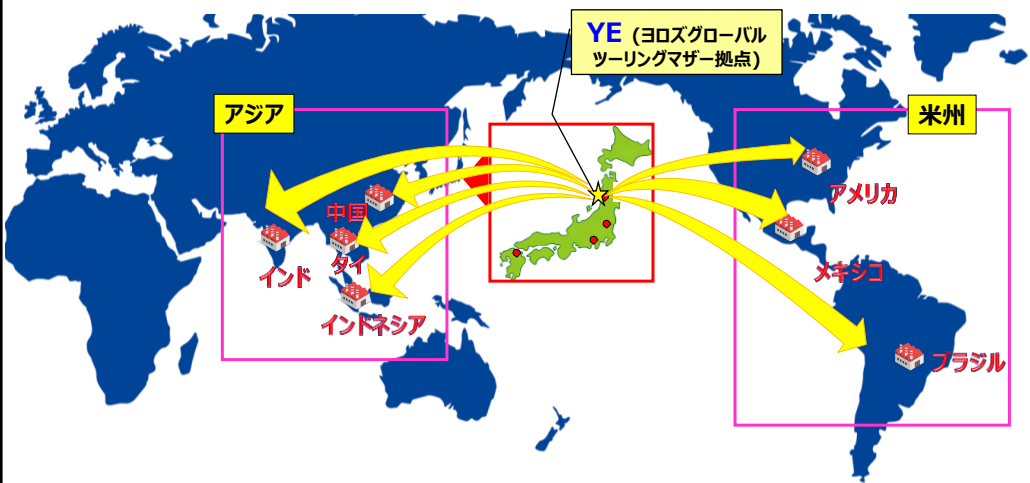
20

- (1) 東京モーターショー
- (2) グローバルプラットフォームの共用化
- (3) 製品力・開発力の更なる強化
(軽量化開発)
- (4) 2017年度上期の品質・開発賞
- (5) 働き方改革の取り組み



東京モーターショー（10月28日～11月5日）に出展

グローバルプラットフォームの共用化 (ヨロズの取り組み) YORZU



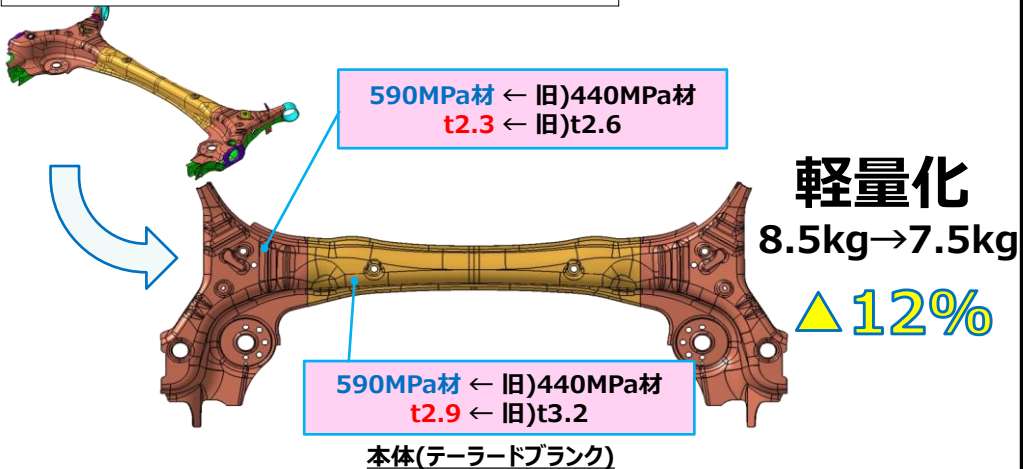
ヨロズエンジニアリング (YE) を強化し、日本に生産技術を集約することで世界同一品質と競争力アップを実現。

23

製品力・開発力の更なる強化～軽量化開発～

YORZU

プラズマテールド工法 リアサスペンション



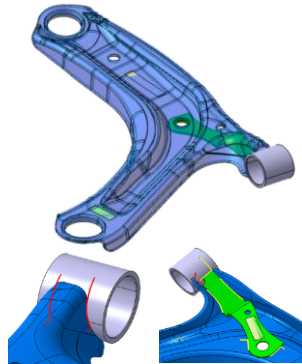
ホンダN-BOXリアサスペンションで、材料を440MPa材から590MPa材に変更して板厚をダウンさせ、軽量化を実現。

24

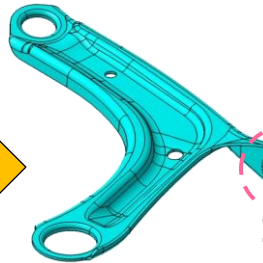
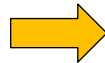
製品力・開発力の更なる強化～軽量化開発～



一体成型サスペンションリンク



現行品 (溶接有り3部品構成)



溶接レス一体成型
(バーリングタイプ)

軽量化

1.65kg→1.4kg

▲15%

提案形状 (溶接なし1部品構成)

ルノー向けサスペンションリンクを溶接に頼らない一体構造とすることで、軽量化を実現。開発は完了し、現在量産準備中。

2017年度上期の品質・開発賞



HONDA



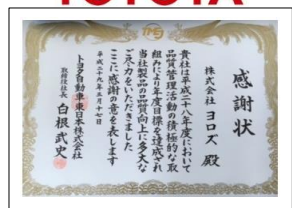
ホンダブラジルより
新車開発優秀賞
(YAB)

NISSAN



北米日産よりリージョナル品質賞
(YMEX)

TOYOTA



トヨタ自動車東日本より
品質感謝状

ISUZU



いすゞ自動車より品質達成賞



東風日産よりリージョナル品質賞
(G-YBM)



日産車体より開発貢献賞

働き方改革の取り組み

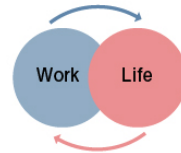


ダイバシティの推進

働き方改革を通じて
一人一人が輝ける会社に



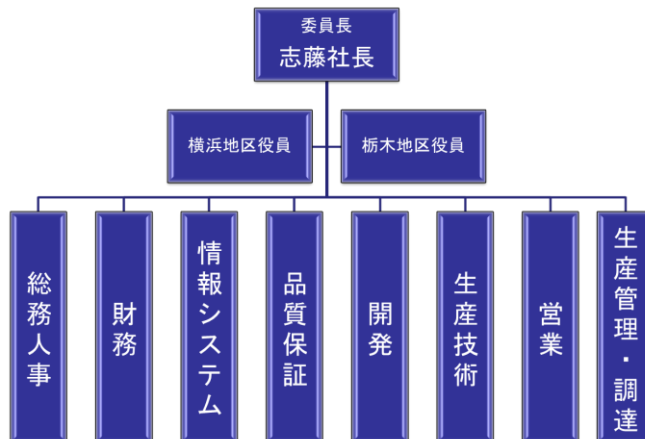
長時間労働



ワークスタイルの変化

働き方改革の取り組み

2017年7月 「働き方改革委員会」 キックオフ



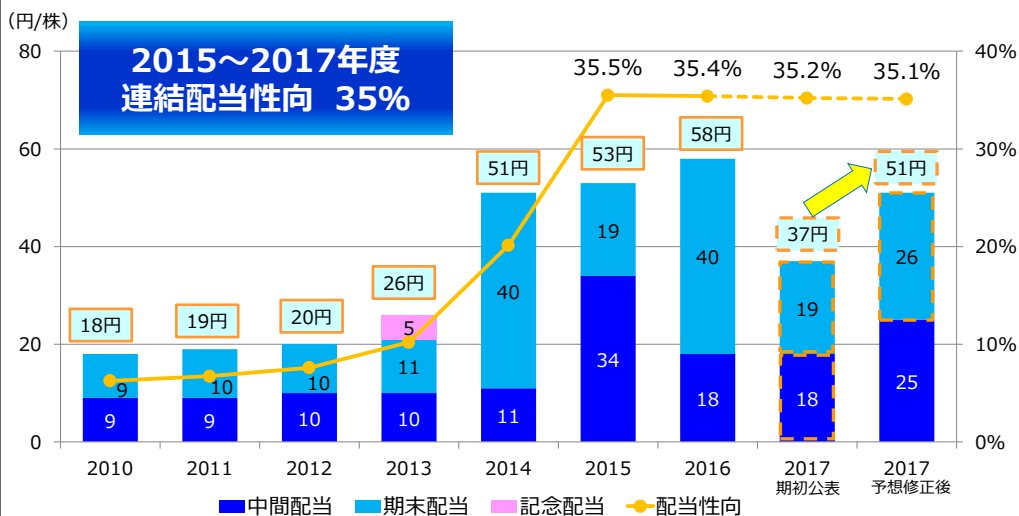
社長と一般職員を中心とした委員会を設立



具体的な方策を次期中計に織り込んでいく

- I. 2017年度上期業績
- II. 2017年度通期予想
- III. 米国での収益改善の進捗
- IV. 最近の取り組み
- V. 株主還元**

財務戦略：株主還元策の拡充



2017年度は期初公表に対し、+14円増配（37円→51円）の見込み

2017年度上期 YORZU 決算説明会

ご清聴ありがとうございました

ヨロズ ホームページアドレス

<http://www.yorozu-corp.co.jp>

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さいますようお願い致します。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

●お問合せ

責任者： (株)ヨロズ 取締役副社長執行役員 財務部長 佐草 彰
担当： (株)ヨロズ 財務部 高橋 剛健

T E L 045-543-6802 F A X 045-543-4915